

〔教育と普及〕 『天気』の普及講座は、ようやく軌道にのってきた。53年の夏期大学で何を取り上げるかは、『天気』にアンケートを載せたい。テキストは、『天気』に掲載したものを使いたい。

〔講演企画〕 12月1日に行なったシンポジウム“天気予報の現状と将来”は、200余名が参加し盛会であった。会員の要望を汲み取った企画であったことが好評の一因。地方在住の会員をスピーカーに招いたので、旅費に6万5千円かかり、講演企画の年間予算を使い切ってしまった。来年度は、東北大、気研の協力の下に、気候変動のシンポジウムを夏期講演会として開催する予定。予算上のご協力をお願いしたい。

議 題

1. 昭和53年度総会ならびに春季大会について
 - (1) 期日：5月23日(火)～25日(木)
 - (2) 会場：気象庁(予定)
 - (3) 当番官署：気象庁気象研究所
 - (4) 総会提出議題については、2月28日締切りとして『天気』に告示。
 - (5) シンポジウムの標題は、「数値実験に基づく大気

大循環について」。

以上のことが承認された。

2. 会費の値上げについて

杉本会計担当理事から、学会費の算定についての説明があった。すなわち、学会の運営は、原則として、A・B会員の会費および賛助会費、文部省の助成金により賄われるべきである。細かい計算は省略するが、A・B会費ともに500円位の値上げが必要と考えられる。

これに対し、物価との関連もあり、一度に多額の値上げをすると脱会する人も多くなるだろうし、この程度の値上げは妥当であるとの意見が多かった。また、外国会員、学生会員、団体会員等についても考慮すべきであるとし、次回の常任理事会に提案して貰うこととした。

3. 『天気』編集委員の交代ならびに追加について

新 榎藤 光宏(気象庁観測部測候課)

旧 関根 正幸(同上)

追加 花房 龍男(気象庁気象研究所物理気象研究部)

以上承認された。

承認事項：山崎和夫ほか15名の入会を承認。

評議員 理事 監事 懇談会 記録

日 時 昭和52年12月19日 17.30～18.30

場 所 如水会館

出席者 評議員：大田、窪田、小林、杉浦、須田、高橋、山本

常任理事：小平、浅井、朝倉、河村、門脇、杉本、立平、松本、股野

監 事：野本

懇談事項

学会の財政について、杉本理事から、予算書(案)および学会費の算定についての説明があり、つぎのような貴重なご意見を頂いた。

1. 会費の値上げ、学会賞藤原賞の賞金の増額につい

ては、やむを得ないとの意見が多かった。

2. 大会の運営については、会場費の負担、地方大会参加の理事の旅費の問題等に建設的意見が出た。
3. 学会の有り方については、独立性を強化すべきである、しかし、独立して果たしてやっていけるかどうかとの意見も出た。
4. 書籍の発行について、収入増になるような単行本的なものを出したらどうか、また、Upper Meteorologyを出すかどうか等の質問も出された。その他にも活発、有益な意見が出されて誠に盛会であった。